

市 民 財 团 ニュースレター

令和4年号

編集・発行

一般財団法人

熊本芸術文化学術振興市民財団

ご挨拶

熊本芸術文化学術振興市民財団

理事長 小野友道



◇カミュの『ペスト』、 漱石の『吾輩は猫である』◇

コロナの収束が見えてこない。昨年一月私ども夫婦はコロナになってしまった。妻は重症で、熊大ICUに五十日間お世話になり、どうにか耐えた。私は高齢者であり糖尿病治療中できつと予後が悪

いとされていたが十日程度の入院で先に自宅暮らしとなつた。一人暮らしの中、妻には連絡すら取ることも叶わず、いろいろしてテレビをつけるとコロナ、コロナで嫌になつた。ふと本棚からカミュの『ペスト』を取り出してみた。「四月十六日の朝、診察室を出た医師ベルナール・リュイは、踊り場の真ん中で、一匹のネズミの死骸につまずいた。・・・」物語の始まりである。そうだ日本にもペストが上陸したことがあつた。明治三十二年、台湾から帰国した会社員が帰路広島でペストになり死亡したのが発端だつた。死者が増えるに従つて、慌てた東京市はペストの元凶であるネズミ捕獲作戦を立てた。「ネズミ一匹五銭で買い上げ」戦法である。庶民は小遣い稼ぎに夢中になつた。五銭で贅沢な天丼が食えるのである。「ネズミを捕つて天丼食おう」が流行語となつた。というわけで漱石の『吾輩は猫である』の吾輩に車

詰まらねえぜ。人のとつた鼠を皆五銭くれるじゃねえか。うちの亭主なんか己の御蔭でもう壱円五十分くらい儲けて居やがるくせに」と宣つた。苦沙弥先生の場合は吾輩がネズミを捕れないでの、稼げ

なし。

しかし、ペスト、そしてネズミ、猫どものお陰で『吾輩は猫である』が生まれたのは間違いない。今日、コロナ禍の中で、きっと何処かで、誰かが名作をものにしている。コロナ文学、コロナ芸術の傑作が生まれる予感です。

◇第九回市民財団奨励賞が決定◇

「第九回市民財団奨励賞」三作品が左記のとおり決定しました。この賞は熊本において発表された芸術・文化・学術の分野で功績のあった作品に表彰状と賞金十万円が贈られます。

第九回奨励賞を受賞したのは、

「芸術の部団体」

◇劇団「石」五十周年記念公演『アルジャーノンに花束を』（劇団「石」）

◇玉名市民合唱団七十周年記念公演 混声合唱曲「万象」（玉名市民合唱団）

「芸術の部個人」

◇出田りあ & 村治佳織 デュオリサイタル（出田りあ）の三作品です。

今年度もコロナ禍で多くの制約を受けて開催された作品の中から、会員推举の三十四作品（重複含む）より、大江捷也副理事長らでつくる選考委員会（お菓子の香梅白山本社四月二十九日開催）で選ばれました。

この三年、コロナ過で思うような文化活動が出来ない状況が続いています。そんな中でも創設以来、何十年も活動を続けて来られている団体、また、新たな試みをやろうとしている方など、さまざまなかたちで努力をされています。熊本の文化活動への取り組みが、今後も継続して行われ、自由に活動できる日が一日も早く戻ることを願っています。（事務局）

※ 開催を予定しておりました贈呈式および受賞者による記念講演は、開催自粛となりました。令和五年三月に第十回市民財団奨励賞選考委員会が予定されています。一月に推薦用紙を事務局からお届けしますので、会員の皆様による沢山の推薦をお待ちしております。

**劇団「石」五十周年記念公演
『アルジャーノンに花束を』**

劇団「石」 堀田 清

第九回市民財団奨励賞に選んでいただ
き誠にありがとうございます。

一番喜んでいるのは劇団員です。それ
もそのはず、今までに賞らしきものに縁
がなかつたからです。しかも石の代表作
である「アルジャーノンに花束を」で受
賞できたことは、このうえもない喜びで
す。舞台は団員の力だけではどうにもな
らず、周りの手助けが必要になります。

今回も劇団のO.B・O.Gをはじめ熊本演
劇人協議会のメンバーにも協力してもら
いました。また、舞台美術の吉本政弘さ
んや舞台照明の色川伸さんにはボランテ
ィアみたいに以前から舞台づくりに取り
組んで頂いた結果が今回の受賞だと思ひ
ます。

NHK放送劇団解散後、若手を中心には
舞台を目指す「石」が誕生しました。先
輩が、せめて三年は頑張りなさい、石こ
ろは人から踏まれても形を崩さないとい
う想いを込めて「石」と名づけてください
ました。

しかし、お客様にはどこまでご理解し
ていただけたかを考えると不安になります。
石はここ十七年間は八割が同じメン
バーです。これも活動の大きな力となっ
ています。この賞を励みに、皆様に感謝
の気持ちを忘れず微力ですが今後も頑張
つてまいります。



【選考理由】

発足から、五十年の時を継続
してこられた事は大変な努力が
必要だつたと推測します。「ま
じめにあそぼう！」をモットー
に子どもからご年輩の方まで、
わかりやすい芝居創りを目指し
てこられた結果だと感じます。
アマチュア劇団でこのような規
模の公演と継続は同じ活動をし
ているものの希望となります。
このような取り組みの継続と今
後益々の活動に期待します



劇団「石」五十周年記念公演『アルジャーノンに花束を』出演者とスタッフたち・公演の様子など。

玉名市民合唱団

創立70周年記念公演

混声合唱交声曲「万象」

玉名市民合唱団

玉名市民合唱団は一九五一年（昭和二十六年）に産声を上げました。悲惨

な戦争が終わり、衣食住のすべてが人の生きるには足りない、貧しさそのものの中でした。さらに次代を生きる若者たちにとつてより深刻なのは、生まれから教えられてきた心の価値の、根底からの逆転でした。そのことの方

がむしろより強く彼らを困惑させたことでしょう。

合唱団創立者の櫻井丸雄のもとに、玉名の数人の若者たちが心のよりどころを捜しに集まりだしたのは、自然の成り行きであつたのでしょう。薬缶で炊いたご飯やイモを分け合い、哲学を語り、恋愛を語り、寝泊まりと共にしたりと、梁山泊状態が出来上がるのに時を要することはありませんでした。

そしてその人たちをつなぐ強い糸が合唱であったのです。上手か下手かに関わりなく、合唱は素晴らしいと皆思っています。自らの出す音が他のいくつかの音と縦・横・強・弱、込める心の色までぴったり合った時の心地よさ

は、決して大袈裟でなく天国にいるとはさもありなんと思わせてくれるのです。

団としての歩みは進取の気持ちを常にしました。創立三年目には独自で演奏会を開催しました。まだあまり有名ではなかつたベートーヴェンの交響曲第九合唱部分を単独で演奏もしました。復帰前の沖縄、台湾、アメリカと海外演奏もトライしました。

一方、山本直純先生のご子息で山本純ノ介氏に作曲依頼をし、昨年創立七〇周年記念で演奏した合唱・ピアノ・プラスアンサンブルによる組曲「万象」をはじめとして、オリジナルの合唱組曲を六作品生み出してきました。

創立以来の八十年代の人、団で出会つて結婚し今も二人で来ている人、親子二代の人、様々の人生に彩もつけてきて下さい。ご他聞に漏れず団員確保に苦労をしていますが、昨年より岩本貴文氏を新たな指揮者に迎えることができ、さらにいい音と人の生き様を追い求めていくつもりです。

今、七〇年前とは似て非なる理由で、しかし七〇年前より深刻に、人の体と心が貧しくなっていくのを感じています。

玉名市民合唱団創立から七十年、玉名の風土に思いを寄せて作詞・作曲された「ピアノ・管・打・混声合唱による交声曲『万象』」は、玉名女子高校吹奏楽部の演奏も加わり、壮大な力強い曲となり、多くの観客を魅了。拍手が鳴りやまないほどの感動を与えました。郷土に愛され親しまれてこられた歴史と文化を感じます。地域に密着したこのような取り組みの継続と今後益々の活動に期待します。



創立70周年記念定期演奏会の様子



この度は市民財団奨励賞を受賞させていただき、とても嬉しく光栄に思います。

十八歳の時に、大好きな熊本を離れて単身パリへ留学しました。地理も言葉も文化も何も分からず、旅行ガイドブックを握りしめて、手のひらにはフランス語をメモして、毎日を過ごすことに必死でした。そんな中で私の支えになったのは、やはり故郷の存在であり、熊本の風景、家族や親友達の顔を思い浮かべては自分を奮い立たせておりました。

演奏家として活動を始めてから様々な土地や国を訪れます、熊本でのコンサートは特別で、いつも心の支えとなりました。

これからも、皆様に良い音楽をお届けするために、努力を重ねて参ります。

二〇二三年六月 ベルリンにて

この度は市民財団奨励賞を受賞させていただき、とても嬉しく光栄に思います。

この度共演させていただいた、ギタリストの村治佳織さんの生の演奏を初めて聴いたのは熊本でした。それから二十年以上が経ち、こうやってステージで一緒にさせていただくなればなるほど、高校生だった私は全く想像しておりませんでした！それを熊本でご披露できたのは喜ばしいことでした。

これからも、皆様に良い音楽をお届けするため、努力を重ねて参ります。

二〇二三年六月 ベルリンにて

【参考理由】

マリンバとギターのコラボレーション。ほとんどの楽曲がこのデュオのために書き下ろされ、または出田りあさん自身が編曲を手がけています。これまでに前例のないマリンバとギターのレパートリーを生み出し、新たな可能性を打ち出されたと感じます。熊本を代表する音楽家として今後ますますの活躍を期待します。

新規入会・継続入会のご案内

熊本芸術文化学術振興市民財団では、熊本の芸術・文化・学術を支え、応援してくださる会員を募集しています。
法人・団体会員 1万円 / 個人会員 5千円

事務局・お問合せ

一般社団法人熊本芸術文化学術振興市民財団 担当 笹原
〒862-0959 熊本県中央区白山1-6-31
株式会社の香梅秘書室
TEL. 096-366-5151 FAX. 096-372-1857
E-mail official@kobai.jp
URL <http://www.shimin-zaidan.kumamoto.jp>

**出田りあ & 村治佳織
デュオリサイタル**

出田りあ



マリンバ
出田りあ
RIA IDETA - MARIMBA



ギター
村治佳織
KAORI MURAJI - GUITAR

アーバンとギターの美しい調べ。
人気・実力とも高い二人の初共演。

出田りあ & 村治佳織
デュオリサイタル

2021年 7月7日 [水]

開場 18:00 / 開演 19:00

市民会館シアーズホーム夢ホール
(熊本市民会館) 大ホール

【全席指定・税込】
S席 3,000円/A席 2,000円

※お問い合わせ：市民会館シアーズホーム夢ホール 096-355-2526

プログラム：

モリコーン／映画『ニューアシネマ・パラダイス』より
ラヴェル／鏡 第4曲「道化師の朝の歌」

ピアソラ／来たるべきもの
フジリヤ／バレエ音楽『三角帽子』メドレー ほか

主催：市民会館シアーズホーム夢ホール
(公財)熊本県立劇場

後援：熊本日日新聞社、KKT、FMK、FM791



▼ 出田りあ & 村治佳織 デュオリサイタル

プログラム

出田りあ & 村治佳織 デュオリサイタル	
2021年7月7日 [水] 開場 18:00 開演 19:00	
市民会館シアーズホーム夢ホール (熊本市民会館) 大ホール	
PROGRAM	
ジュラード・フランク(脚本: Alexander Krampe) フォルクート	
エニエ・セリエーリ(脚本: 豊太介)より 映画『ニューアシネマ・パラダイス』より	
スタンリー・マーサー(ライバー)脚本: 出田りあ 映画『ディア・ラ・バンガ』より「ゴルゴタイマー」	
アンドリュー・コーン(リハビリテーション: 出田りあ) サンバースト	
デシャン・セリエス 禁じられた遊び	
イザベラ・アカレスス ダストリオラス	
モーリス・ラグリム(脚本: 水谷久美)、 第4曲「道化師の朝の歌」*	
ジエラード・ラグラン(脚本: 水谷久美) シェルブルームの雨傘	
ガブリエル・フォント(脚本: 出田りあ) シリエヌ	
アンドリュー・アーヴィング(脚本: 出田りあ) 米だらべきもの	
J.S.バッハ(脚本: 出田りあ)	
無伴奏ヴァイオリンのためのワルツ第3番より ラルゴ	
マコロラ・セーフォード(脚本: 出田りあ) アグス・ショーメル・コルブズ	
ニコラ・ラムゼー(脚本: Nancy)	
マチエル・デ・ラ・コラ(脚本: 出田りあ) バレエ音楽『三角帽子』メドレー	
マリヤ・リード(脚本: イターレン)	

主催：市民会館シアーズホーム夢ホール
後援：熊本日日新聞社、KKT、FMK、FM791

協力：YAMAHA
協賛：MEDICAL STAGE